

8 月 26 日(水) FNS チャリティキャンペーン寄付金贈呈式

「ホッタラケの島 ～遥と魔法の鏡」では鑑賞料の一部(入場者一人当たり 10 円)を本年度の FNS チャリティキャンペーンの支援国であるシエラレオネ共和国に寄付します。

8 月 26 日、東京・日本ユニセフ協会にてこの FNS チャリティキャンペーンの寄付金贈呈式を行いました。「ホッタラケの島 ～遥と魔法の鏡～」を代表して、主人公・遥の声を担当した綾瀬はるかさんと、遥と共に冒険するテオ、また日本ユニセフ協会・早水専務理事、フジテレビの中野美奈子アナウンサーが出席しました。

フジテレビ・中野美奈子アナウンサー(以下 MC):

今回はこの映画「ホッタラケの島 ～遥と魔法の鏡」の鑑賞料の一部を、FNS チャリティキャンペーンの一環としてシエラレオネ共和国の子供たちに寄付しようという主旨になっております。

FNS チャリティイベントは、フジテレビを中心とする FNS 系列 28 のテレビ局が主催しています。1947 年にスタートしたキャンペーンで、35 年間にわたりユニセフを支援しています。「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに掲げ、様々なかたちで活動しております。年度ごとに支援国を決めて現地に取材を行い、その現状を番組を通して皆さんにご覧いただき募金を呼びかけています。

そして今年 2009 年、支援国は西アフリカのシエラレオネ共和国です。あまり聞きなれない国名だと思うのですが、この国は世界で最も平均寿命の短い国と言われています。また、「世界で一番、子どもを生むのに危険な国」とも言われています。今回、FNS チャリティキャンペーンの一環として、映画「ホッタラケの島 ～遥と魔法の鏡～」の鑑賞料の一部、一人あたり 10 円をシエラレオネの子どもたちの命と成長を守るために活動するユニセフに寄付することになっております。

本日は、まず 100 万円をユニセフ協会に贈呈する運びとなりました。この映画「ホッタラケの島 ～遥と魔法の鏡」は大冒険を通じて、人の心の大切さ、そして、心のつながりを改めて感じる事がテーマとなっております。多くの子どもたちに向けた映画のメッセージは、まさにこのキャンペーンと共通するものがあるのではないかと思います。

日本ユニセフ協会 早水専務理事:

FNS チャリティキャンペーン様からは、35 年に渡って継続して「世界の子供達のために」ということで、取材、または映画を通じてご協力いただいています。この 35 年間、大変長い期間に渡ってご協力いただき、それが国際的にも認められ、2006 年には世界的に権威のあるローズドール賞(チ

ヤリティ部門)を受賞されています。そういった歴史があって、かつ価値のあるご協力に心から感謝しています。

今回、支援国として選ばれたシエラレオネ共和国は大変厳しい状況にある国です。そこに生きる子どもたちのために、募金を預かります。どうもありがとうございます。

MC:シエラレオネ共和国の現状とはどのようなものなのでしょうか。

早水専務理事:

シエラレオネ共和国は、ユニセフの子どもの支援を行う人たちにとってはある種、誰でも知っている国名でもあります。各国の生存状況を表す指標となる「5歳未満の子どもの死亡率」というのがあるのですが、シエラレオネは世界でワースト1に値する国なのです。現在でも、4人に1人以上の子どもが5歳の誕生日を迎えずに命を失っている国です。

また、非常に貧しい国です。シエラレオネの人口の6割が、1人当たり1日1ドル25セントという貧困基準以下の生活を余儀なくされています。このようなことになってしまっている大きな理由の一つには、2002年まで10年以上に渡って内戦があったことです。

本当はとても大きなポテンシャルのある国で、西アフリカの中でも広大な大西洋に面しており、緑豊かな国です。そして子どもたちを含め、とても若い国です。ポテンシャルはたくさんあるのですが、これを生かしきれていない。また、生かすだけの十分なシステムが整っていないのです。こういった状況の改善に向けて努力中だということです。

そして、現在は色々な指標が、少しずつ改善されつつあります。ですが、まだまだ解決すべき問題があり、これからも重要になってきています。しかしそんな状況の中でも心を強く持てる事柄があります。それは女性の識字率(文字を読み書きし、それを理解できること。識字教育の浸透を意味する)が高まってきているということです。この流れを止めることなく、これからも皆さまの継続的な支援が非常に大事だと思っています。

綾瀬はるかさん(遷役):

「ホッタラケの島 ～遥と魔法の鏡～」は、子供たちがドキドキワクワクするような冒険たっぷりの映画です。この作品の鑑賞料の一部が子供たちに寄付されるということで、大変嬉しく思います。

MC:綾瀬さんは先ほど2階の展示をご覧になって、学校や病院など、世界の子供たちがまだまだ貧しい状況に置かれているということを学びました。今回のシエラレオネという場所も世界で一番子どもが生きていくのが大変な国と言われていますが、それについてどう思われますか？

綾瀬さん：

夢や希望などが一番育まれる子どもの時期に死と隣り合わせに置かれている、という状況に、心が痛みました。鑑賞料が少しでも、シエラレオネの子供たちに役立てばいいと思います。

- ここで、「ホッタラケの島」の住人テオくんが目録を持って登場。綾瀬さんへ渡しました。そして、綾瀬さんからユニセフ協会の早水専務理事へ、100 万円の目録が贈呈されました。
-

早水専務理事：

皆さまのご協力のお陰で、本日こういった形で目録を受け取りました。本当にありがとうございます。「ホッタラケの島」を鑑賞する一人ひとりの行動が、シエラレオネ共和国の子どもたちの明日へ繋がるというのは、とても意義のあることだと思います。ぜひ、鑑賞される方々にこの意義をなんとかお伝えできたらと思いますので、そのあたりも含め、今後ともご協力いただければと思います。

- 贈呈式の前に、綾瀬さんはユニセフ協会の 2 階にある、常設展示コーナーを見学しました。